

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3870102997
法人名	医療法人岡本医院
事業所名	グループホームみつはま
所在地	愛媛県松山市住吉2丁目2番21号
自己評価作成日	平成26年7月10日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成26年7月23日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

グループホームみつはまは、“いつもいっしょ、同じ屋根の下で、心と心で行きましょう”・・・をスローガンに、入居者の方々とスタッフが、仲良く助け合って生活していくことを大切にと努めています。母体は岡本医院であり、24時間往診も可能です。皆さん先生を信頼し、安心して生活されています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

運営推進会議には、地区の民生委員、広報委員(防災士)、協力委員、ご家族の方等が出席されており、事業所の取り組み等を報告して、「看取り」や「研修報告」等、テーマを決めて意見交換されている。事業所で看取りを支援した利用者のご家族は、地域住民としてその後、数回、会議に出席して下さった。特に昨年度は、「防災」について繰り返し話し合われ、出席した地域包括支援センターや市の担当者から「地域と密着して防災に取り組んでいるのはとても良いことだ」等の感想があった。

事業所では、開設時より、看取り支援に積極的に取り組み、ここ2年間では6名の利用者の看取りを支援された。入居時には、「重度化・看取り支援に関する意向確認書」を提示して説明しており、全ての利用者及びご家族が、事業所での看取りを希望されるようだ。事業所では、ご本人の望むことを一番に考え、又、医師と連携しながら、点滴を続けるべきかどうか等、揺れ動くご家族の思いに寄り添い、その人らしい最期を迎えられるよう支援されている。ご家族とともに最期を見守られることも多く、利用者の中には、「ありがとう」と手を合わせて旅立っていかれる方もいる。

・サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11,12)
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目：28)		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

事業所名 グループホームみつはま

(ユニット名) A、Bユニット

記入者(管理者)

氏名 宇野 明美

評価完了日

平成26年7月10日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 同じ屋根の下に住む地域の住民として、普通の暮らしを続けていけるように皆で支援にあたっている。	
			(外部評価) 開設時に、管理者が中心となりつくった理念、「いつも一緒同じ屋根の下で 心と心でいきましょう」のもと、「互いを尊重し、認め合い、助け合い、楽しく生活」ができるような支援を目指しておられる。理念は、事業所の玄関や居間に掲示しており、パンフレットにも掲載されている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 玄関には鍵をかけず、特別に目立つものも置かず普通の家のたたずまいにしており、地域の方と違和感なく暮らしている。 地域の行事などへの参加(バザー・花火大会、防災訓練など)をしている。お祭りには、神輿が玄関前に来てくださり、入居者の方も楽しみにされている。	
			(外部評価) 散歩時には、近くのタバコ屋の方が声をかけてくれ、運営推進会議にも快く出席してくださっている。食材の米や味噌は、近所の商店で買い求めている。管理者は、「以前は近隣の幼稚園児との交流もあったが、現在は途切れているので、こちらから働きかけていきたい」と話しておられた。又、職員は、「本がお好きな利用者を図書館にお連れしたい」と話しておられた。今後も、利用者が地域社会とつながりを持って暮らし続けられるよう、取り組みの工夫を重ねていかれてほしい。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 地域の方と普通に交流することで、認知症になってもこのように普通の暮らしが続けられることを地域の皆さんに解かっただけのように示していきたいと考えている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 運営推進会議では、ホームの現状、問題点についても報告させていただき、皆さんと話し合いを行っている。評価の方法についても皆さんにお知らせしており、結果についても報告させていただいている。防災については、地域の防災組織に入っており、支援の体制を作っていたい。	
			(外部評価) 会議には、地区の民生委員、広報委員(防災士)、協力委員、ご家族の方等が出席されており、事業所の取り組み等を報告して、「看取り」や「研修報告」等、テーマを決めて意見交換されている。事業所で看取りを支援した利用者のご家族は、地域住民としてその後、数回、会議に出席して下さった。特に昨年度は、「防災」について繰り返し話し合われ、出席した地域包括支援センターや市の担当者から「地域と密着して防災に取り組んでいるのはとても良いことだ」等の感想があった。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 運営推進会議には、市町村担当者の方々に出席していただき、ホームの現状、問題点について話させていただいている。ご意見、アドバイスなどもいただいている。	
			(外部評価) 運営推進会議にて、民生委員の方や地域包括支援センターの担当者に、それぞれの役割と業務について話していただいたこともある。3ヶ月ごとの地域包括支援センター主催の「連絡会」には、管理者が出席して「看取り」や「拘束」等について、情報交換されている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 自由にその人らしくを大切に日々の支援にあたっている。身体の拘束をして自由を奪うことがいかにはならない事か常に話し合っている。その人その人の個性を大切に取り組んでおり、代表者もそのことはよくわかって下さっている。	
			(外部評価) 日中、玄関は施錠されていない。現在、ご家族の希望もあり、ベッドからの転落防止のため、夜間のみベッドの4点柵を付けているケースがある。さらに、万が一のことを考えて、クッションになるよう、ベッドの足元にふとんを敷いている。管理者は、安全のためとはいえ、ベッド柵に頼りがちにならないような支援に努力するよう、職員に話しておられる。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 虐待はあってはならない事、勉強会などで常に話し合っており、職員が意識を共有し、実践に努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 事業や制度について、勉強会で確認しあった。活用については、現状がどうなのかわからない部分があるので、運営推進会議などで市町村の方に相談させていただき、家族の方にもお知らせしていきたい。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 利用されようとする時の不安な気持ちを受け止め、何でも話していただけるように相談に乗っている。解約に関しても、遠慮はいらないこと利用される方の思いが一番であり、その時は相談に乗ることお話ししている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 面会時、お便り、電話にて、その都度意見、要望をお聞きしている。運営推進会議には、家族の皆さんに参加を呼びかけできるだけ参加いただいている。その時外部の方とも意見交換している。 (外部評価) 毎月、利用者一人ひとりの身体面、精神面及び心がけたい点等を手書きした、「みつはまだより」をご家族に届けており、ご家族からは「楽しみにしているので、続けてほしい」等の声がある。たよりとともに、写真や運営推進会議の議事録等も同封されている。前回の運営推進会議時には、ご家族から、「職員の名前が分かるようにしてほしい」「地域の子ども達との交流を図ってほしい」という意見があり、管理者は対応していく旨を伝えられた。家族会は、1年に一度、忘年会と併せて開催されており、半数程度のご家族の出席がある。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 運営に関する職員の意見や思いはあり、代表者に伝えている。 代表者の会議への参加は、あまりしていただけないのが現状である。	管理者や職員は、入浴支援や外出支援、楽しみごとの支援等の充実を図り、利用者一人ひとりの暮らしを支えていきたいと考えているが、職員の人員等のことがあり、取り組みが思うようにすすまない現状のようだ。又、管理者は、「職員の介護技術等のさらなるスキルアップ」を課題に挙げて、「勉強会や外部研修受講にも積極的に取り組みたい」と話しておられた。ケアサービスのさらなる質向上という観点から、ケア向上や環境整備等について、利用者に直接かかわる職員から提案して、法人と話し合うような機会を作ってはどうか。
			(外部評価) 職員は、日々のケアの中で、その都度相談したり、アドバイスし合ってチームケアに努めておられる。月に一度行っていた職員会議が、業務に追われ、最近滞っていたが、7月から再開された。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 通常の勤務以上に働く必要があった場合、時間外手当がついている。研修参加は、労働時間として取り扱ってもらっており、時間外になった場合、時間外手当がつくなどの環境・条件の整備あり。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 法人内外の研修を受ける機会を認めてくださっているが、特に進めているわけではない。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 管理者や職員が、取り組むことに関しては理解して認めてくださっている。	
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 不安な事、解からないこと、してほしいと思っていることを何でも話していただけるように努めている。サービス内容については解かり易く説明し、本人のことにっては、本人が話して下さることに耳を傾けるようにしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価)	
			サービス内容を解かり易く説明している。 困っていること、不安に思っていることを何でもお聞きし、安心していただけるように努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価)	
			相談を受けた段階で、他のサービスを受ける方法もあると思えば、そのサービスについてもお話しし、ゆっくりと相談に乗っていくようにしている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価)	
			そのように努めている。食事の下ごしらえをしてもらったり、味見をしてもらったり、洗濯物をかたずけてもらったり、不安な方に寄り添ってもらったり、お互い助け合って生活している。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価)	
			面会時、お便り、電話にて、今の様子をお伝えし必要な相談をさせていただいている。行事にも参加していただくなどお互いに支えていく関係を築いている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価)	
			馴染みの人が訪ねてこられたら、遠慮なく過ごしていただけるように配慮している。訪ねて行きたい方があれば出かけたり、連絡して会いに来ていただいたりしている。	
			(外部評価)	
			友人と2人で選挙に出かける方や、ご家族と外食やお墓参りに出かける方もいる。利用者の希望で、職員が付き添ってご自宅に帰り、一緒にご飯を食べて戻ってくるようなこともある。ご家族の中には毎日のように来訪し、利用者の食事介助する方もある。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価)	そのように努めている。 集団生活なので、もめ事もあるが、それは、普通の家族でもあることでもあり、お互いがいたわりあって生活していけるように支援している。
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価)	入院が長引いて利用が終了しても、必要であれば今後のことについて相談に乗ったり支援したりしている。
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価)	そのように努めている。日々の表情、言動に気を付けて対応するようにしている。心配な様子見られるようであれば、その都度検討している。
			(外部評価)	
			管理者は、利用者個々に「入居前の生活史」「入居後の生活状況」等をさらに細やかに把握できるよう、アセスメントシートの充実をすすめておられる。利用者が一番輝いていた時代のことや人生の最後にどんな介護を受けたいのか等、情報収集に努め、介護計画につなげていかれてほしい。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価)	日頃の会話などから個々の生活や、趣味などを知り、今の生活でもできることは応用し、実践している。
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価)	現状の把握には日々検討し努めている。

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価)	
			そのように取り組んでいる。 健康管理、医療的管理については、主治医と相談し指示もいただきながら介護計画を作成している。	
			(外部評価)	
			ご家族からは、介護計画に対する意見は少ないようだが、「穏やかにゆっくり暮らしてほしい」との希望が多いようだ。「役割を持って生活する」「少しでも誰かの役に立ちたい」という利用者には、「他利用者のお話し相手や見守りをしてもらおう」ことを計画に盛り込まれていた。毎月、担当職員がモニタリングして、3ヶ月～6ヶ月ごとの計画の見直しにつなげておられる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価)	
			そのように取り組んでいる。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価)	
			充分とは言えないかもしれないが、そのように取り組んでいる。(カットサービスの利用、受信の付添、緊急時対応、書類提出の代行など・・・)	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価)	
			地域の行事に参加したり、本人がやってきたことを続けるよう支援に努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 入居時に、医師である代表者より、母体医院がかかりつけになることを説明している。これまで診てもらっていた医療機関とも連携を取り、必要時、希望時、受診をすることも支援している。	
			(外部評価) 法人代表者であるかかりつけ医は、定期的な往診だけではなく、常に利用者の健康や医療について相談できるようになっており、ご家族や職員は心強く思われている。耳鼻科や歯科等の専門医受診の際は、ご家族にお願いすることもあるが、管理者も同行されている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	(自己評価) そのようにしている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	(自己評価) そのように行っている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) ホームでは看取りの支援を行っており、入居時にそのことを説明させていただいている。看取り支援については、本人さん及び家族さんの意向を大切に支援させていただいている。	
			(外部評価) 事業所では、開設時より、看取り支援に積極的に取り組み、ここ2年間では6名の利用者の看取りを支援された。入居時には、「重度化・看取り支援に関する意向確認書」を提示して説明しており、全ての利用者及びご家族が、事業所での看取りを希望されるようだ。事業所では、ご本人の望むことを一番に考え、又、医師と連携しながら、点滴を続けるべきかどうか等、揺れ動くご家族の思いに寄り添い、その人らしい最期を迎えられるよう支援されている。ご家族とともに最期を見守られることも多く、利用者の中には、「ありがとう」と手を合わせて旅立っていかれる方もいる。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 急変時、事故発生時の対応については、その対応について確認し話し合いを行っている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 昨年度、町内会の自主防災組織ができ、その組織の一員となっている。災害時、お互いに助け合う組織づくりができています。避難方法については、今後も訓練の積み重ねが必要と思っている。	
			(外部評価) この1年、運営推進会議を活かし、災害時における地域との協力体制の構築に力を入れて取り組まれた。事業所が所在する地域は、高齢者や老人介護施設も多く自主防災意識が高く、「要援護者支援班名簿」も作成されている。法人代表者もメンバーに入っており、地区全体で支え合う組織作りをすすめている。事業所は、災害時に避難場所として使ってもらいたい旨を伝えておられる。地域の防災訓練には、職員と利用者が参加しており、又、災害に備えて防災頭巾を準備し、食糧等を備蓄されている。	
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) それぞれの個性があり難しい面はあるが、職員同士入居者の情報を共有し、人格を尊重した支援に心掛けている。	
			(外部評価) 洗濯物たたみや花の水遣り等、利用者一人ひとりに応じて役割や出番を作り支援されている。折り紙の得意な利用者は、出来上がった作品を他の利用者にプレゼントして、喜んでもらっている。起床が早い「お腹がすく」という利用者の声や、食事介助が必要な方へ1対1でゆっくり対応できるようにという考えから、現在は、朝食の時間は6時からとなっており、それに伴い、昼食が11時、夕食が17時からとなっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 表情の観察、声掛けなどの働きかけにて、本人の希望が表わすことができるように支援している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価)	
			できるだけそのようにしており、それぞれの方のペースを大切に支援にあたっているが、今の職員体制では、困難なところも見られる。職員側の都合が優先されてしまっている場合みられる。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価)	
			そのように支援している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価)	
			皆さん食事を楽しみにされている。それぞれの方の好みも取り入れた食事を用意させていただいている。職員は、利用者の方と一緒に食事をとっている。	
			(外部評価)	
			事業所では、昼・夕食は業者から調理された食事が届き、朝食とご飯、汁物は事業所で作っておられる。行事や誕生日には、個々の希望等を聞き、外食したり店屋物を取る等されている。肉を魚に代替する等、利用者の好みに合わせてアレンジしたり、好物のフルーツを添えることもある。職員が、朝食の準備を前日の夜にしていると、利用者がお味噌汁の具を刻んでくれることもあるが、食事の準備や片付けは、現在は、職員が行っている。職員は、利用者と同じ物を食べており、全介助で食事する利用者は、他利用者と時間を少しずらして、職員が1対1で支援されている。さらに、利用者が主体の食事を支援するという観点から、職員のかかわり方や支援に工夫できないか、話し合ってみる機会にされてはどうか。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価)	
			そのように支援している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価)	
			朝、夕の口腔ケアを実施している。他は、必要時行っている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) そのように支援している	
			(外部評価) 排泄のパターンを把握して、トイレで排泄できるよう支援されている。居室にポータブルトイレを置き、使用する方もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) そのように取り組んでいる。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 一人ひとりゆっくりと入浴が楽しめるように心がけている。曜日、時間帯は、基本的に決めている。	
			(外部評価) 2階にある浴室はトイレの後ろ側にあり、トイレを通らないと行けない造りで、構造上、使用が難しいこともあり、現在は使用していない。1階にある浴室を2ユニット共同で使用しており、1階の浴室に連れて下ることができない状態の利用者は、清拭して支援されている。現在は、3日に一度の入浴となっているが、利用者によっては、シャワー浴の方もいる。職員は、「せめて夏場は、2日に一度入浴できるようになれば」と話しておられた。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) そのように支援している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) そのように努めている。症状の変化があれば、看護師、主治医に報告、相談している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 介護度が高い方が多く判断できにくい、そのように心がけている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 自分で歩ける方が少なくなり、散歩に出かけること減ってきているが、戸外に出て、日光浴をされたりしている。お誕生日などには、希望に沿って食事に出かけたりしている。家族の方と出かけられる方もおり、支援している。 (外部評価) 4月にはご家族も誘ってお花見を楽しみ、8月には三津の花火大会に出かけておられる。誕生日には、希望に応じてデパートやうどん屋に出かけられるよう支援されている。利用者は90歳を超える方が多く、又、重度化や職員の人手不足も伴い、日常的な散歩や外出の機会が減っており、管理者は、外出支援を今後の課題として挙げられた。又、職員も「介護度が重度の利用者のお世話に追われ、気軽に出かける等、お元気な方への対応がやや手薄になっている」と感じておられた。	外出することは利用者の楽しみでもあり、又、ご家族の期待度も高い。外に出かけて季節の風を感じたり、地域の人達とふれあったりすることを当たり前の営みとして、支えていかれてほしい。利用者の希望を引き出して支援につなげたり、ご家族にも支援の工夫や要望についてうかがったり、ご家族やボランティアの方等に協力してもらいながら、出かける機会を作っていかれてほしい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 希望のある方は、そのようにしている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) そのように支援している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 建物自体は北欧の優しい色遣いで、刺激が少ないものである。室内には、季節の花を飾り、季節感を取り入れている。皆が過ごす所や廊下には、イスやソファを置いている。</p> <p>(外部評価) 玄関前に階段が3段あるが、車椅子を使用する際には、スロープを渡して支援されている。事業所は2階建て、2ユニットが2階建ての真ん中で縦割りに分かれており、台所はそれぞれ2階にある。食事は、1階は2ユニット合同、2階は各ユニットで食べておられた。階段は2ヶ所あり、1ヶ所には昇降機が設置されていた。冬場は、床暖房で足もとがあたたく、夏場は、隣家の屋根の照り返し等の軽減のため、ブラインドを使用されている。笹飾りが飾られ、短冊には利用者ご自身で書かれた願い事や、百人一首等がしたためられていた。各所に観葉植物を配し、卓上には蘭や季節の花も生けておられた。調査訪問時の昼食後、歌のお好きな利用者のために、職員がCDをかけたところ、「歌は世につれ、世は歌につれ。歌はええなあ」と話してくださった。又、ソファに腰掛け、利用者同士で話したり、職員とおしゃべりすることが日課の利用者もおられた。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>(自己評価) イスやソファが所々にあり、自由に好きな場所で過ごされている。</p>	
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 皆さんそのようにされている。</p> <p>(外部評価) 居室で過ごされる利用者が多く、昼食後、居室のベッドで横になり、テレビを見ている方もおられた。居室には、仏壇やたんす等が持ち込まれていた。各居室の入り口には、防災のれんが掛けてある。職員は、「みんなが居心地よく過ごせるよう、居住空間をもっと丁寧に掃除していきたい」と話しておられた。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>(自己評価) 普通に近い造りなので、自分らしく過ごしていけると思う。廊下、階段、トイレ、浴室などに、木の手すりあり。トイレ空間は狭いため、車椅子での利用は不便である。障害のある方にとっては暮らしにくい部分もあり。</p>	